

夏秋



アキノキリンソウ(秋の麒麟草)
(キク科)
日当たりの良い山野に生える多年草。根生葉はぶつう花期には枯れる。黄色の頭花を多数つける。



エゾリンドウ(蝦夷竜胆)
深山の湿地帯に生える多年草。葉は対生し、裏面は粉白を帯びる。



ツリガネニンジン(釣鐘人参)
(キキョウ科)
俗にトトキと呼ばれ、うまい山菜のひとつ。葉は茎をかこむように生え、茎や葉を切ると乳液を出す。和名は太い根をチョウセンニンジンにたとえ、花をつり鐘に見たてて名づけられた。



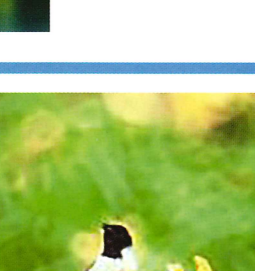
ナガボノシロワレモコウ(長穂の白吾木香)
(バラ科)
湿った草地に生える多年草。根生葉は柄があり、11~15個の小葉からなる。花穂は枝先につき、直立または、下垂し、白緑色。高さ0.8~1.3m。



センダイハギの実(マメ科)
花の後にできる豆果は、線形で平たく毛があり長さ7~11cm、裂開して10~15個の種子を飛ばす。



カワラナデシコ(河原撫子)
(ナデシコ科)
山野の日当たりの良い草地や河原に生える多年草。花は茎頂にまばらに咲き淡紅色で直径4cm。



目モギの花

その他の植物

春 カシワ、キツネヤナギ、ヤマナラシ、チマキザサ、コメガヤ、ヒメタガソドソウ、スズメノヤリ、ミヤコグサ、コウゾリナ、ヒメシダ、スイバ、アサツキ、ニガナ、ヒメオドリコソウ、スカシユリ、ヘラオオバコ、アゼスゲ、カワラマツバ、コウホネ、シロネ、ヒツジグサ、チドメグサ、ヒメジオン、ミズナラ、メマツヨイグサ、オランダミミナグサ、ヒメシダ、ヌルデ、ハギ、ツルフジバカマ、イ、カセンソウ、ウツボグサ、ウキヤガラ、ダイコンソウ

夏~秋 ヤマブドウ、イタドリ、ススキ、アキカラマツ、オトギリソウ、ミズギク、ハンゴンソウ、ヨメナ、タムラソウ、アザミ、ツユクサ、ノコンギク、ヨモギ、チガヤ、シロバナサクラタデ、サワヒヨドリ、イヌタデ、オニユリ、イブキボウフウ、ムジナスゲ、ケカモノハシ、カモノハシ、アブラガヤ、チゴザサ

海岸植物 ハマエンドウ、ツルウメモドキ(ヤマガキ)、ハマヒルガオ、ツタウルシ、カワラヨモギ、ハマハタザオ、オオウシノケグサ、アオツツラフジ、ハインズ、コウボウムギ、ウンラン、ハマニンニク、オニハマダイコン、ハマナス、エゾボウフウ、シオデ



ヒョウタンボクの実

ヒョウタンボクの花

目モギの花

鳥



コヨシキリ



コジュリン



オオヨシキリ



カンムリカイツブリ



ホオアカ

ベンセ湿原の花物語



ニッコウキスゲ(日光黄薔)
(ユリ科)

日光に多くキスゲに似ているということでこの名があり、別名ゼンテイカ(禅庭花)。多年草で高さ70cm内外。花は濃い橙黄色で朝開いて夕方しぼむ一日花。



ノハナショウブ(野花菖蒲)
(アヤメ科)

湿地や草地に群生する多年草。葉の太い中脈が目立つ。赤紫色の花をつける。外花被片の長さは約7cmまで、中央部に淡黄色の細い斑紋がある。

つがる市観光物産協会

〒038-3192
青森県つがる市木造若緑61-1
TEL.0173-42-2111
<http://tsugaru-kanko.org/>

春



ヒメハギ
(ヒメハギ科)
マメ科のハギに似ているためついた名前。マメ科の花びらが5枚に対し、ヒメハギは3枚。小さい上にシバなど他の草に隠れるように生え、しかも地を這うように伸びる。



ミツガシワ
(ミツガシワ科)
山地の湿原や湿地に生える。名は三枚の小葉をカシワの葉にたとえたもの。氷河期の生き残り植物と考えられている。



ネジバナ(振花)
(ラン科)
花序がねじれていることによる。ラン科の植物にしては、珍しく繁殖が旺盛。株になって二回転していたり直線になっていたり、右巻き左巻きとさまざま。ひとつひとつ観察すると面白い。



アズマギク
(キク科)
本州の中部以北に分布。多年草で丈は10~30cmぐらい。花は直径3cmほどで、淡紅紫色、束になって生える。



ミツバツチグリ(三葉土栗)
(バラ科)
土栗に似ていて葉が3小葉による。山野の日当たりの良いところに生える多年草。地下に肥大した根茎があり根茎が栗に似ていることからその名がある。



ヒメレンリ草(姫連理草)
(マメ科)
連理は、男女の深い契りのたとえ。小葉がきれいに対生している。湿った草地に生える多年草。茎は直立し、両側に狭い翼がある。巻きひげがある。



センダイハギ(先代萩)
(マメ科)
野の花らしからぬ派手さがある。ベンセ湿原では、花から実になるまで、しっかり鑑賞できる。



カキツバタ
(アヤメ科)
池やせせらぎのほとり、湿原、水湿地などに生える。葉は幅が広く中脈がない。外花被片は垂れ、基部に白色の斑紋がある。



ヤマドリゼンマイ
(ゼンマイ科)
明るく広げた山地の湿原などに群生する。ゼンマイは白っぽい綿毛をかぶるのにヤマドリゼンマイは淡褐色の綿毛をつけるので簡単に区別できる。ヤマドリの尾によく似ることからこの名がある。



カキラン
(ラン科)
日当たりのよい湿地に生える。葉は5~10枚が茎の中ほどより上に互生。和名の「柿蘭」は花の色による。



エゾミソハギ(蝦夷襪萩)
(ミソハギ科)
湿地に生える多年草。ミソハギに似ているが、茎や葉、花序などに短毛がある。葉は対生する。



トキソウ(朱鷲草)
(ラン科)
花の色がトキの羽の色を思わせることによる。日当たりの良い酸性の湿地に生える多年草。地下茎は細く横に這う。



ミズドリ(水千鳥)
(ラン科)
日当たりの良い水湿地に生える多年草。花は芳香があり、ジャコウ千鳥の別名がある。穂状の花序に白色の花を多数つける。



オニユリ
(ユリ科)
野原や田のあぜなどに生える。名はヒメユリに対して大きいことによる。葉のわきにつく珠芽(むかご)で繁殖する。



モウセンゴケ(毛氈苔)
(モウセンゴケ科)
葉に赤い毛が多く、水苔上に一面に群生する姿を毛氈に見立てたもの。日当たりの良い湿地に生える多年草。水中にも生える食中植物で葉の表面に粘液を出す腺毛がある。



クサレダマ(草連玉)
(サクラソウ科)
花がマメ科の低木レダマに似ているからと言われるが実は、あまり似ていない。別名は花の色から硫草草。やや湿り気のあるところに生える。地下茎を伸ばしてふえる。茎には短い腺毛と短毛がやや密に生える。



コオニユリ
(ユリ科)
山麓、山地の日当たりのよい湿り気のあるところに生え、高原や湿原にも見られる。オニユリより小形で珠芽(むかご)はつかない。



タチギボウシ(擬宝珠)
(ユリ科)
1本の細長い茎にラッパ型の花がつく。和名は蕾が橋の欄干の宝珠に似ていることからくる。「ウルイ」という夏の山菜にもなる。



ノコギリソウ(鋸草)
(キク科)
山地の草原に生える多年草。高さ0.5~1mになり葉とともに軟毛があり、上部の葉液から枝分かれする。葉は互生し、鋸のようにギザギザしているのが特徴。

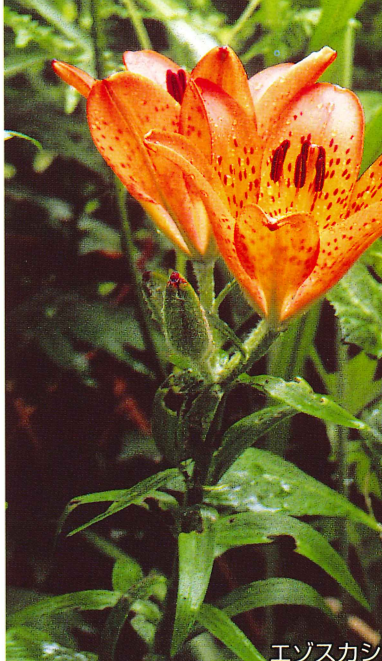


サワギキョウ
(キキョウ科)
古くから、さまざまな花道書に取り上げられ茶花として親しまれている。下から花が咲き上がる。全草毒がある。

夏



ゴウオン (タイツリスゲ)



エゾスカシユ

昆虫



アオイトトンボ



アジアイトトンボ



オオセズジイトトンボ♂



オオセズジイトトンボ♀



ハラヒロトンボ



ヨツボシトンボ



コヤスジ